

弾誓

阿弥陀寺は 1569 年に、自身の宗派を興した修行僧である弾誓上人によって設立されました。もともとは、今日の愛知県出身である弾誓は、封建時代の日本で最も低い階級の人々、例えば、鋤夫またはその他の「汚れ」される職業の人々に教えを説くことを選択しました。これにより、弾誓自身が上流階級に排斥されました。

彼はまた、阿弥陀仏の名前を記した札を約 400 万幅作成し、信者たちに配布し、教えを説いたことで有名です。

のちに弾誓は、彼の弟子達に、寺院の建物の裏側の急な山腹に洞窟を掘り、洞窟内に石の墓を建設するように指示しました。1613 年、62 歳で、彼は洞窟に入って祈り、断食を開始しました。彼の弟子は、わずかな空気穴を残して、石の墓を封印しました。

数日後、弟子たちは弾誓が念仏を唱える声が聞こえなくなってから 3 日後に空気穴を閉じました。弾誓は、彼の行動が後に彼の墓に礼拝に来るすべての人々の救いを保証すると信じていました。

すべての人々の救済を願いながら厳しい修行の末、瞑想しながら絶命し、その体がミイラ化した者が「即身仏」と呼ばれます。

明治時代（1868-1912）に地下室を開き、弾誓の遺骨を墓に納骨する計画がありました。しかし、部屋が開かれたとき、彼の遺体が完全にミイラ化されていることが発見されたため、新しい霊廟に遺体を安置することになりました。約 1.5 メートル四方の石の立方体であるその墓は、まだ洞窟の中にあり、訪問者は敬意を払い、祈りを捧げます。